Press Release

日文研

令和4（2022）年7月14日

報道関係者
地域広報関係者　各位

国際日本文化研究センター

「第5回　日文研－京都アカデミック ブリッジ」開催のお知らせ

国際日本文化研究センター（日文研）は、京都新聞社と連携し、これまでの研究や最新成果を市民の皆さまに発信することを目的として、京都市中心部の会場で継続的に「日文研－京都アカデミック ブリッジ」を開催しています。

第5回目は、京都新聞文化ホール（京都新聞ビル7階）を会場として、下記のとおり開催しますので、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。取材を希望されるメディアの皆様は、下記事務局の京都新聞COM事業推進局開発推進部に、事前にご連絡ください。

記

〇タイトル：第5回　日文研－京都アカデミック ブリッジ
〇テ　ー　マ：「時代劇をつくろう　太秦の力」
〇日　　時：2022年8月11日（木・祝）　18:00-20:00（開場17:30）
〇会　　場：京都新聞文化ホール
（京都市中京区烏丸通夷川上ル　京都新聞ビル7階）
〇参　加　料：無料、要申込（定員100名、応募多数の場合は抽選）

〇内　　容：今年は、かつて映画館が林立した新京極開通から150年。来年は松竹下加茂撮影所設立から100年、2025年には阪東妻三郎プロダクションが太秦で初の撮影所を設けてから100年を迎えます。数々の名作を生み出してきた映画産業のまち・京都で、原作者や脚本家、俳優と研究者が、未来の時代劇を語り合います。自由で楽しい議論をお楽しみください。

【1】パネルディスカッション
【パネリスト】　澤田瞳子（作家）
谷　慶子（脚本家・立命館大学映像学部准教授）
三谷昌登（俳優・脚本家）
磯田道史（国際日本文化研究センター教授）
【司 会 進 行】　西田彰一（国際日本文化研究センタープロジェクト研究員）
【2】質疑応答
※日本語で行います。詳細については、以下のURLをご参照ください。
https://www.nichibun.ac.jp/ja/events/academic_bridge/2022/08/11/

本件お問い合わせ先：
事務局　京都新聞COM事業推進局開発推進部
TEL: 075-255-9757（平日10:00-17:00）　E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

○申し込み方法：参加をご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数（複数名参加希望の場合は全員の必要事項）、パネリストへの質問事項を明記のうえ、はがき、Eメールまたは応募フォームからお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選を行います。参加者にはがき（聴講券）を発送しますので、当日持参してください。

応募締め切り：2022年7月28日（木）必着

○申　込　先：【は　が　き】〒604-8567　京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内
「日文研-京都アカデミックブリッジ」係
【E－mail】keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
【応募フォーム】https://kyoto-np.jp/_JwNoZmY

○主　　催：国際日本文化研究センター、京都新聞
○協　　力：文化庁 地域文化創生本部
○別 添 資 料：第5回 日文研－京都アカデミック ブリッジ広報チラシ

本件お問い合わせ先：
事務局　京都新聞COM事業推進局開発推進部
TEL: 075-255-9757（平日10:00-17:00）　E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies
京都新聞

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第5回

日文研　京都

アカデミックブリッジ

THEME

時代劇をつくろう
太秦の力

パネリスト：澤田 瞳子（作家）
パネリスト：谷　慶子（脚本家・立命館大学映像学部准教授）
パネリスト：三谷 昌登（俳優・脚本家）
パネリスト：磯田 道史（国際日本文化研究センター教授）

進行：西田 彰一（国際日本文化研究センタープロジェクト研究員）

要申込
入場無料
定員100名
（抽選による）

2022.8.11（木・祝）18:00～20:00（開場17:30）　京都新聞文化ホール
（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）

文化庁京都へ　文化庁

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター、京都新聞
協力：文化庁 地域文化創生本部

「日文研ー京都アカデミック ブリッジ」とは

国際日本文化研究センター（日文研）が京都新聞社と連携し、これまでの研究の蓄積と最新の成果を市民の皆様に発信することを主な目的とする催しです。2020年度から京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第5回 日文研 京都

アカデミック ブリッジ

THEME

時代劇をつくろう 太秦の力

今年は、かつて映画館が林立した新京極開通から150年。来年は松竹下加茂撮影所設立から100年、2025年には阪東妻三郎プロダクションが太秦で初の撮影所を設けてから100年を迎えます。数々の名作を生み出してきた映画産業のまち・京都で、原作者や脚本家、俳優と研究者が、未来の時代劇を語り合います。
自由で楽しい議論をお楽しみください。

パネリスト　澤田 瞳子
作家

1977年京都市生まれ。同志社大学大学院博士課程前期修了。2010年『孤鷹の天』でデビュー。同作で中山義秀賞受賞。16年『若冲』で親鸞賞受賞。20年『駆け入りの寺』で舟橋聖一賞受賞。21年『星落ちて、なお』で直木賞受賞。他に『火定』『落花』『能楽ものがたり　稚児桜』『輝山』など。『輝山』は京都新聞朝刊などで連載した。好きな時代劇は「白虎隊（1986）」。

パネリスト　谷 慶子
脚本家・立命館大学映像学部准教授

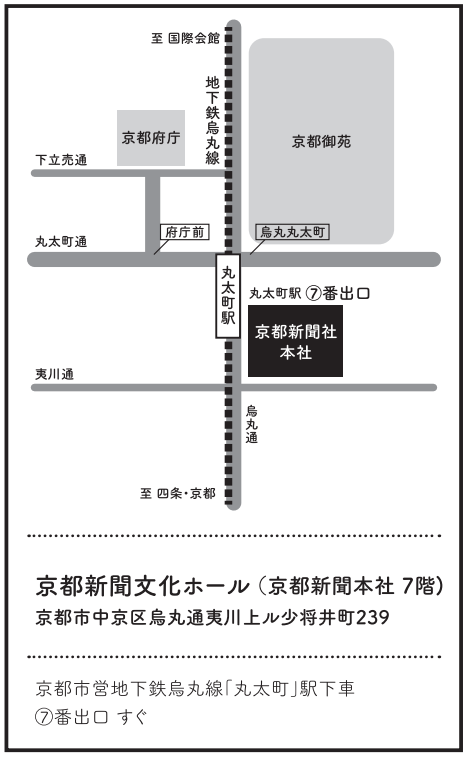
1968年大阪市生まれ。大阪芸術大学芸術学部映像学科卒業後、目標である脚本家への第一歩として東映京都撮影所に所属し、撮影現場でのさまざまな情報を記録・管理するスクリプターとなる。2003年、新人脚本家の登竜門である「城戸賞」で準入賞、脚本家としての活動が始まる。京都新聞夕刊コラム「現代のことば」を連載中。好きな時代劇は「忠臣蔵」。

パネリスト　三谷 昌登
俳優・脚本家

1977年京都市生まれ。俳優・脚本家・ラジオDJとして活動中。主宰する「劇団6.89」では脚本・演出・出演を兼ねる。2010年MBSラジオドラマ脚本「罪と罰と人情と」で民放連最優秀作品賞受賞。テレビドラマ「軍師官兵衛」「青天を衝け」「ドクターX」「カムカムエブリバディ」などに出演。脚本に、「スカーレット」「雲霧仁左衛門5」など。好きな時代劇は「雲霧仁左衛門」。

パネリスト　磯田 道史
国際日本文化研究センター教授

1970年岡山市生まれ。慶応義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（史学）。茨城大学助教授や静岡文化芸術大学教授、日文研准教授を経て、2021年4月から現職。専門は日本近世史。著書に『日本史の内幕』『無私の日本人』など。『武士の家計簿』は2010年に映画化。大河ドラマ「西郷どん」では時代考証を担当。好きな時代劇は「独眼竜政宗」。



京都新聞文化ホール（京都新聞本社 7階）
京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町239

京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
⑦番出口 すぐ

参加申し込み方法

参加ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数（複数名参加希望の場合は全員の必要事項）、パネリストへの質問事項を明記の上、はがき、Eメールまたは右記応募フォームで下記までお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選で100名に聴講券を送付します。

締め切り：　2022年7月28日（木）　（必着）

〈はがき〉〒604-8567　京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内「日文研ー京都アカデミック　ブリッジ」係
〈Eメール〉keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
〈応募フォーム〉https://kyoto-np.jp/_JwNoZmY

※応募者の個人情報は、京都新聞COMが管理し、本事業の運営と日文研関連事業のご案内に使用させていただきます。
また聴講者に新型コロナウイルス感染者が発生した場合、要請があれば保健所等の公的機関に情報提供いたします。

※本事業の取材を希望される方は、右記のアドレスにご連絡願います：　keikaku@mb.kyoto-np.co.jp